

令和4年度投稿

俳句

(六月)

桜島 梅雨に來たから 雲の傘 (仙巖園 一級建築士)
ジャズ帰り ボーンのみんなで 夜景見る (城山 柴田 WITH トロンボーン)
鳶が舞う桜岳望む夏御殿 (仙巖園 谷口 茂)

(七月)

ああ壮大・ここにそびえる・桜島 (仙巖園 ゆうこ)
爆風の虹ともなりて曾木の滝 (南洲 坂本幸代)
かなかなの鈴振るごとく透き通り (南洲 坂本幸代)
西郷に 思い馳せ眺める 桜島 (城山 むとう)
城山のセミ せごどん見守る 応援歌 (城山 ちろる)

(八月)

終着点 向日葵わらう 薩摩富士 (南洲 ゆっこ)
桜島 汗を乾かす あいの風 (城山 孤立系のエントロピー)
親子丼 カツ丼牛丼 西郷どん (城山 広島のおいど?)
空消えて 緑いづるや にわか雨 (城山 堀 竹板)
処暑だ 休んで來たよ 仙巖園 (仙巖園 やくざるばんざい)
桜岳に向日葵添えて写メをとる (城山 川口正一)
ラーメンと白熊食って桜島 (城山 濱田達海)
もう少し あと少しだと言ひ聞かす (城山 浜田耕作)

(九月)

しろくまを食べて涼まる仙巖園 (仙巖園 中村美由紀)
夏雲と競う噴煙桜島 (城山 小高 幸一)
しろやまや ああしろやまやしろやまや (城山 西郷の愛犬づん)
白波の 心なごます 浜辺かな (城山 木佐貫 拓郎)
天までも薩摩城山夏木立 (城山 新としを)
すすきのき すきすすきすすき すつきすすき (仙巖園 Pontaカード)

(十月)

蝉しぐれ有無を言わせぬ桜島 (城山 ツラじやない)
石階段 下りた先には 赤とんぼ (仙巖園 もなか)
城山に どんと構える 西郷どん (城山 青木商店)
四十雀 さえずり近し 山の頂き (城山 でんか)
桜島 展望台も 秋装う (城山 でんか)
稲光 思うがままに 落ちてこい (城山 おにぎり三代)
ころころと 山の恵みが 流れ星 (城山 おまつ)
木漏れ日に 混ざるアイスと アゲハ蝶 (城山 おにぎり三代)

クスノキも クズなオレには かなわない(城山 おにぎり三代)
三泊で 味わう六白 秋祭り(城山 おにぎり三代)
焼き芋屋 それが酒なら さけならば(城山 おにぎり三代)
秋近し 静かな島も つむじ風(城山 青木商店)
栗もなし 見える絶景 侘び寂びし(城山 青木商店)

(十一月)

八十路にて目に焼き付くる錦秋の旅(城山 尾方清憲)
枯れ葉散りゴミも散りぬる観光地(城山 永谷真梨)
筒音に菊花踊る仙巖園(仙巖園 小田 涼)
開聞岳見え城山の冬うらら(城山 金子恵美)
西郷どんの優しさ伝へ木の実降る(南洲 金子恵美)
凍天を突く桜島まなかひに(城山 金子恵美)
噴煙や ゆられて散るる いわし雲(仙巖園 大橋 明浩)
秋桜に 顔寄せた君の 頬染まる(仙巖園 西郷さんに仕えたい)
コロナ禍もにぎあいもどり秋夕焼け(仙巖園 ひまわり)
西郷どんに魅られ魅せられ春の風(仙巖園 タカーユキ)
修学旅行の仙巖園楽しくて草(仙巖園 藤本くん)
家族たび雨にけむった桜島(城山 ワタナベヒロコ)
桜島げに男山秋高し(仙巖園 竹内万希子)
頂の陽光(ひかり)染み入る秋の水(城山 みずみず)

(十二月)

霧雨の 桜島観て 感無量(仙巖園 杉本しのぶ)
雨の初冬 篤姫になる 桜島(仙巖園 杉本しのぶ)
死を覚悟 寒き城山 笑顔の友(城山 杉本しのぶ)
さくらじま ふゆでもふんか げんきよく(城山 そういち)
しろやまで歩く景色はさいごうだ(城山 熊本の生徒会長)

(二月)

雨の町優しく見守る 桜島(城山 まこゆき)
在りし日の門のむこうをゆく列車(仙巖園 165)

(二月)

桜島に姫気分かな仙巖園(仙巖園 はるママ)
うつくしき 庭をながめて もち食べる(仙巖園 茶々)
嗚呼独り 青空見つめ 幾星霜(城山 松原向陽)
かごんまの歴史を学ぶ西郷どんどん(城山 龍く正👉)
杉が飛ぶ・鼻も心も・溢れ出す(城山 恋を応援する会)
桜島 笑ひたそうな 春の暮(城山 村田賢信)
砂風呂や独りはるかぜ聞きし夜(城山 村田賢信)
ぢゃんぼ餅喰い喰い眺める桃の花(仙巖園 おにへいさん)

梅の香に 灰の混じりし 島津の風 (城山 しろくま)

城山は寒風吹き桜島 (城山 堀場好広)

再びに旅を満喫懐かしき (城山 堀場好広)

梅薫る 池端の獅子 桜島 (仙巖園 山本保志)

雨の音と 微かに香る 椿かな (城山 さつきまで飛んでた少年)

降灰のざらりと春の桜島 (南洲 中澤 美佳)

梅の花 綺麗な植物 素敵だな (仙巖園 がんりきまる)

(三月)

城山の 春の声きき はな (華、鼻) かぐる (城山 カートレ)

梅が香や仙巖園の紅き門 (仙巖園 鳥居玲子)

城山で告白したら振られたよ (城山 セカンドコロタン)

汗をかき 火照る体を 東風が吹く (城山 三田泰誠)

木の柵にひとつひとつと置き椿 (城山 びやた)

スギ花粉 朝靄と共に 消えてくれ (城山 横山勇樹)

息きらし臨む先霞にゆれる桜島 (城山 みやもとつばさ)

曇天の中でも映える存在感 (城山 なにわのドン)

梅雨上がり 助手席で撮る 桜島 (仙巖園 あいちちゃん)

春の風 そびえ立つのは 桜島 (城山 ぼっちくん)

桜島 桜咲けよと 灰ふかす (仙巖園 ゆうざえもん)

燃ゆる春 眺めて願う 桜島 (城山 小岩孝一)

令和4年度投稿

川柳

(六月)

西郷どん あなたはここで 何思ふ(城山 ウルフマン)
家族旅行 俺の心は ブルースカイ(仙巖園 のびのびお)

(七月)

雨上がり 見上げる先に 桜島(仙巖園 柏木沙織)
仙巖園 島津も夢見た 桜島(仙巖園 きつちよむ)
母の手を引いて歩いた仙巖園(南洲 史絵)
桜島 大地のパワーを吸収だ(南洲 史絵)
桜島 姿見えなきや 信じない(仙巖園 ちーやん)

(八月)

タバコの火 ともしてくれよ 桜島(城山 孤立系のエントロピー)
桜島 火山噴火で パニックだ(城山 トモタカ)
倒れても その上生える 木の命(屋久島にて)(城山 トモタカ)
死して尚国論二分蟬時雨(城山 川口正一)
ラーメンと白熊食って桜島(城山 濱田達海)

(九月)

しろやまや ああしろやまやしろやまや(城山 西郷の愛犬づん)
乾いてる小川の川が可哀想(仙巖園 Pontaカード)

(十月)

ばくちの木 身ぐるみはがれて 立ち尽くす(仙巖園 もなか)
城山を登ると現る桜島(城山 西谷幸貴)
ビルよりも 高く聳える 桜島(城山 青木商店)
下からか 上から見るか 天文館(城山 おにぎり三代)
会いにきた 君との間に 錦江湾(城山 おにぎり三代)
ハイキング 脚の痛みも 心地よき(城山 でんか)
トンネルを 抜ければそこは 桜島(城山 でんか)
桜島 見守る前で プロポーズ(城山 青木商店)
痛み耐え 見える景色に 痛み入る(城山 青木商店)
ただ見つめ ビューティフル 言葉でず(城山 青木商店)

(十一月)

秋風に西日の光る桜島(城山 アトム ライオン)
島津家が眺む桜の山頂や(仙巖園 おくっぺ)
重責と 戦がなけりや 住みたいなあ(仙巖園 びわこたん)
八十路にて目に焼き付くる鹿兒島のたび(城山 おがたせいけん)
記念碑の上には誰かの水筒が(城山 永谷真梨)

多彩菊 文明開花の 人化粧 (仙巖園 小田 涼)
筒音に 菊花踊る 仙巖園 (仙巖園 小田 涼)
輝いた 瞳に映る 多彩菊 (仙巖園 小田 涼)
菊まつり 文明開花の 人化粧 (仙巖園 小田 涼)
仙巖園しか勝たん (仙巖園 藤本くん)
洪滞で 窓から求める 両棒餅 (仙巖園 はやしゆう)

(十二月)

忠義の在りし日を偲ぶ仙巖園 (仙巖園 杉本光)
若武者の気迫が迫る田原坂 (南洲 杉本光)
雲離れ、嘆き明かすは、遠くの我 (城山 蜂蜜ラテ)
しろやまの さいごうたちの ゆめのあと (南洲 そういち)

(一月)

さくらじま さくらじまじま さくらじま (南洲 さくらじまだいすきまん)

(二月)

彼女欲しい 絶景見てなお 晴れぬ煩惱 (城山 松原向陽)
雨模様・雲がもくもく・桜島 (城山 恋を応援する会)
スペシャルの しろくまの途中 ころでよか (南洲 鹿児島県のシモ・ヘイへ)
桜島 雲ありき空も いとをかし (城山 中京大学工学部電気電子工学科一同)
黄金色・お肉漂う・鍋の上 (南洲 セバスチャン)
先人の・知恵と情熱・感じた地 (南洲 レオナルド)
鹿児島島の春を感じる河津桜 (城山 堀場好広)
隆盛や ようやく会えたな 高まるわ (城山 さつきまで飛んでた少年)

(三月)

サンダース 世界で一番 かわいいね (城山 なこまる)
朝靄の 海をゆく船 桜島 (城山 三田泰誠)
見上げたら想像以上の桜島 (城山 びやた)
朝起きて山を登って桜島 (城山 横山勇樹)
曇り空作り出したのお前かい? (城山 なにわのドン)
鹿児島島の 景色見下ろす 友心人 (城山 ぼっちくん)
燃ゆる霧 眺めて祈る 桜島 (城山 小岩孝一)

令和4年度投稿

短歌

(六月)

無し

(七月)

さくらじま おおきくみえる てんぼうだい くらべて街は こめつぶのよう(城山 スタック)
温泉のように温かい人情と美味しい味に触れた鹿児島(城山 西宮のアップルパイ)

(八月)

桜島 花咲く島と 勘違い 男らしくて ギャップ萌えして(城山 孤立系のエントロピー)
桜島 火山噴火の パニックも 西郷どんが 守ってくれる(城山 トモタカ)
故郷の懐かしき坂 汗をかき登れば観える櫻島山(城山 浜田耕作)

(九月)

青年の君と酒場で呑み交わす バケットリストに記しておこう(城山 小高 幸一)
男旅 西郷どん故郷 巡るなか 歴史と食に 舌鼓(城山 めいちゃんのパパ)
鳴かぬなら見学しよう仙巖園来ない人は来るまで待とう(仙巖園 Pontaカード)

(十月)

薩摩人暮らすこの地を楽土へと実現せしやまだ見ぬ未来(折り句です「さくらじま」)(仙巖園 瓜助)
見上げたたら 木々の間に 千尋巖どうしてそんなに 動員したか(仙巖園 もなか)
桜島こぼれる夏日秋晴るる雪見はちかく巡る四季かな(城山 日本酒もぐら)

(十一月)

ああ虚しいとても虚しい虚しいだかつての公園辿り着けずに(城山 永谷真梨)
洗顔園さいこう(仙巖園 藤本くん)
鳴き声にふと見上げれば名も知らぬ鳥たちが舞う竹林の道(仙巖園 公私混同)
コロナ禍もほとぼり覚めし磯の庭行き交う客の会話にて知る(仙巖園 公私混同)

(十二月)

八つ目の 景色はいかに 思ひはせ流るるままに 身を寄せてみる(城山 つじーさん)
我が胸の燃ゆる想いにくらぶればお前はデカすぎ桜島山(城山 アグー)
濡れもみじ 踏み分け進む 城山に 傘さす父の 傘寿の旅路(城山 アグー)

(二月)

薄氷に 耐える芝草 色褪せぬ 鉄路の軌音 響く朝露(仙巖園 なべち)
(三月)
城山を巡りて桜島の晴この静けさのとしえにあれ(城山 谷幹雄)
色多し 鳥の囀り ちゅちゅちゅんと 接吻横目に 嘆く我かな(城山 松原向陽)

大学の・親友たちと・最後の旅・卒業旅行で・九州一周(城山 恋を応援する会)
たなびく煙を頂きにむき出すいわおを従えて海にそびえる桜島(仙巖園 おに)
港から 青く聳える 桜島 なんと美味しい 首おれのサバ(城山 ネル〜)

銃声と西郷の死を慕開けに 日本の文明さあ開化せん(城山 しろくま)
初上陸 かごつま市内驚いた 〇時のチャイムが 世田谷と同じ(城山 さつきまで飛んでた少年)
音にきく 島はおちかた くゆれども 二月はつかに かぐは紅梅(仙巖園 ちきりんてこりん)
なりあきら 桜と島の手前には 西郷どんの 新しきまちかな(城山 いわのぼり)
なりあきら 散りて灰になりぬとも 積もりて芽吹く 薩摩桜よ(仙巖園 オープンドア)
一枝にも年月感ず城山は雄々し猛るる桜島見つ(城山 五百枝逆嶋)

(三月)

惑星の奥より雲となるために桜島より煙はのぼる(仙巖園 宮梓一)

雄大な 自然の中に 僕一人 夢叶わぬと 涙を飲んだ(城山 なこまる)

春近く 薩摩国の 桜岳は 我の悩みも 小さきものかな(城山 名無しの若者)

息切らし 登る山の その先に 皆がもちよる 椿の証(城山 三田泰誠)

来るもの拒まず去るもの追わずドンと構える桜島(城山 なにわのドン)

初孫を・抱いて眺める・桜島・それを眺める・笑顔の夫婦(仙巖園 〇世代旅行良いね)

幾千の段をのぼりし 行き着いた 展望台で 春の世を見る(城山 ぼっちくん)

桜島 噴火しないで 今だけはジャンボ餅を食べ終わるまで(南洲 あやぎえもん)

燃ゆる春 眺めて祈る 桜島 シラス台地に 偉人の願い(城山 小岩孝一)